

自助 自分の身は自分で守る

「自助」は、自分でできることを、自分自身で行うことをいいます。災害からあなたと家族の身を守るのはあなた自身です。そのために、わたしたちは普段からどんなことに注意し、どのような備えをすればよいのでしょうか。庄原消防署の西口勤係長にお話を聞きました。

◎危険個所に近づかないこと



庄原消防署 消防司令
にしぐち つとむ
西口 勤

備北地区消防組合庄原消防署
予防係長兼小隊長。
昭和30年生まれ、東城町戸宇。
昭和53年1月に採用。



人命救助訓練

毎年必ずと言っていいほど、大雨や暴風の前後に河川や用水路などに立ち入り、犠牲となる人がいます。わたしも大雨の時など、田んぼを見て回ることにありますが、増水した水路に近づくと、体がすーっと水の中に吸い込まれるような感覚になります。いくら家の周りが心配でも、命を落としたのでは意味がありません。増水した河川や用水路に近づくと、大変危険です。絶対に、一人で危険な場所には行かないでください。人は皆、いざという時に、慌ててしまいます。西から天気が崩れ、九州地方で大雨が続いている時などは、中国地方でも要注意です。いざという時、どのように行動すればいいかイメージトレーニングをして、早めに避難準備をしてください。

また、頭で理解していても、実際に訓練していないと、実践できないことがあります。普段は、消火器の使い方や119番通報など、よく理解していても、いざという時、実践できなかったという事例は数多くあります。災害時には、普段でできることができなくなるのです。わたしたちプロの消防士でも、数カ月火災がなくて、いざ出動すると慌てる場合があります。そのために、わたしたちは火災がなくても、定期的に出動訓練を行っています。自治会などでも防災訓練に取り組み、積極的に参加してください。

防災訓練に関するお問い合わせは、庄原消防署
(0882472001)
またはお近くの消防署・出張所まで。



平成18年災害



昨年行われた三日市密集地火災想定訓練

突然ですが、質問です。災害時にあなたを助けてくれるのは誰ですか？昨年、鹿児島県が行った県民意識調査によると、「消防（団）や警察から救出してもらえらると思う」と回答した方が最も多く、その割合は75%を超えています。あなたの意識は、いかがですか？

助が31%、救急や自衛隊などによる公助は2%にも満たない割合でした。地震に限らず、災害の規模が大きくなればなるほど、行政の対応力は小さくなります。つまり、災害から尊い生命や大切な財産を守るためには、普段から「自助」「共助」の充実を図ることがポイントになるのです。6月は土砂災害防止月間。あなたとあなたの大切な人を守るために、防災力を高めましょう。

生き埋めや閉じ込められた際の救助

誰が	%	自助・公助・共助の別
自力で	34.9	自助 66.8%
家族に	31.9	
友人・隣人に	28.1	共助 30.7%
通行人に	2.6	
救助隊に	1.7	公助 1.7%
その他	0.9	

(※日本火災学会：「兵庫県南部地震における火災に関する調査報告書」による)

公助 自助・共助を補完

「公助」は、個人や地域の力では解決できないことについて、市、消防(団)、警察など公的機関が行うことをいいます。その中でも、地域住民で構成された消防団は、日頃から地域に密着した防災活動に取り組み、災害時には常備消防と共に大きな力を発揮しています。消防団の活動について、庄原市消防団山口忠男団長にお話を聞きました。

◎地域住民と情報を共有し 地域の安心・安全を守る



庄原市消防団
やまぐち ただお
山口忠男団長

西城町三坂、昭和20年生まれ。昭和39年に西城町消防団に入団。平成10年に西城町消防団長。市町村合併により、平成17年から庄原市消防団長。

昨年は災害のない大変穏やかな一年でした。しかし、昨年の嵐の前の静けさと考えれば、今年は大変怖い年だと思います。大雨や台風が来るものとして、災害への備えを呼びかけています。

庄原市では過疎・高齢化が進み、自力で避難することが困難だったり、誰かの助けが必要だったり、災害弱者と呼ばれる人が増えています。このような状況の中で、消防団員は各々のリーダーとして、地域の安心・安全は自らが守るんだという気概を持ち、絶えず地域を見守っていかねばいけません。防災・防火・防犯と、その役割は増えています。

地域の安心・安全を守るには、消防団と常備消防が、それぞれ持っている強み・弱みを補完していかなければいけません。地域に暮らす消防団員は、地域の危険個所や各世帯の家族構成まで、だいたい把握しています。有事の際は、それらの情報を生かして、被害の軽減を図っていきたく思います。

また、地域住民への声かけも大きな仕事の一つです。日頃から、地域住民とお互いに情報を

共有しながら危機管理意識を高め、自助・共助を下支えするよう活動をしていきたいと思っています。

庄原市消防団も合併して4年目になりました。有事に備え、日頃から各方面隊、各分団を中心に反復訓練を重ねています。本年は、消防団員の交流をさらに深めるため、初めて夏期訓練を合同で行います。また、林野火災想定訓練も、地域住民参加型で、より効果が高い訓練を計画しています。

一方で、消防団員も高齢化したり、課題もあります。消防団員だけでなく、自主防災組織の結成など、地域住民がお互いに助け合える地域づくりが求められています。

地域のコミュニティも低下傾向にあります。いざという時に助け合えると思ったら、どれだけ心強いでしょう。防災の基盤は自助・共助です。

自主防災組織や消防団の後援会組織の結成を支援し、各地域の防災組織と連携しながら、災害に強いまちづくりを目指していきます。

自主防災組織の結成手順

自治振興区や自治会を活用して結成する方法を事例に、結成の具体的な手順を紹介します。

- 1 自主防災組織の結成について、自治振興区や自治会に提案する。
- 2 結成準備を行う担当者を決める。
(防災活動の経験がある人を選ぶのが望ましい)
- 3 自主防災組織の基本的な事項について、案をまとめる。
①組織のカタチの決定 ②組織の編成案の作成
③役員の人選 ④規約案の作成
⑤活動計画案の作成 ⑥収支見込み
- 4 役員会でよく話し合い、よりよい案に修正する。
- 5 役員会で案の了承を得る。
- 6 自治振興区や自治会の総会で、討議、可決する。

自主防災組織の結成

自主防災組織は、地域住民が自主的に連携して、防災活動を行う組織のことです。平常時は防災訓練や広報活動、災害時には初期消火、救出救護、集団避難、避難所への給水給食などの活動を行います。自主防災組織は、地域住民の合意で結成し、規約、組織、活動内容を定めることで成立します。

自主防災組織とは



自主防災組織への助成制度

(財)自治総合センターのコミュニティ助成事業では、消防防災資機材の整備を支援します。

- 助成対象者 自主防災組織および婦人防火クラブ、またはその連合体
- 助成額 新設の自主防災組織(30万円～200万円)など
- 助成資機材の参考例 携帯用無線機、可動式動力ポンプ、ホース、防水シート、テント、担架、給水タンク、炊飯装置など

※自主防災組織に関することは、総務課行政係(☎0824-73-1123)または各支所地域振興室に相談してください。

自主防災組織のカタチ

組織のカタチには、いくつかのタイプがあります。どのような組織にするかは、地域の実情に応じて検討することが大切です。

【自治振興区が結成する場合の事例】

型	説明	役員構成
重複型	自治振興区の組織を、そのまま自主防災組織に兼ねさせるカタチ	自治振興区の代表者、役員が自主防災組織の代表者、役員を兼ねる
内部組織型	自治振興区の下に、別に自主防災部門をつくり、その部門を自主防災組織とするカタチ	自治振興区役員とは別に、独自に代表者、役員を選ぶ
別組織型	自治振興区が中心となり、自治振興区とは別に自主防災組織を結成するカタチ	独自に代表者、役員を選ぶ